

◆第1委員会室◆

※奈良でのイベント、若者の政治参加などについて活発な意見交換が行われました。



【議員 6名】

座長：山中益敏

議員：亀田忠彦、猪奥美里、中川崇、森山賀文、小林照代

【高校生 12名】

（奈良女子大学附属中等教育学校）早崎祐矢、荒木聖一朗、林建吾

（奈良大学附属高等学校）林直毅、神子直輝、上田好成、杉田弘海

（奈良情報商業高等学校）吉本唯、進藤熙斗、竹田沙羅、畑林佐耶、上田直輝

<高校生からの感想・意見>

- もうすぐ18歳になるので、スマートフォンのニュースなどで政治を学ぼうとしても、単語などが難しく、なかなか入ってこない。
- 若者向けのイベントは、きちんとしたプロの運営でフェスなどを開いたら、もっと若者が集まると思い質問した。さらに平城宮跡などの歴史のある場所を使って開くと、地域の活性化につながるのではないかな。
- 観光などで、大阪や京都に追従するのではなく、奈良にしかない魅力を発信してオンリーワンの存在を目指したほうがよいと思う。
- 吉野の木をどう使うのか、身近なものは何かと話していた中で、箸が出てきた。吉野杉でできたマイ箸を小学生に渡して、小学校の給食に使ってもらったら、きれいな箸の使い方を学べ、日本文化も継承していけると思い提言した。
- 高校で選挙の授業もあったが1日限りであった。小さいときから政治の大切さや1票の重さを継続して授業にすればよいと思う。
- 被選挙権年齢も引き下げて、若い人には供託金も引き下げたらいいと思う。政治の方向を若者に向けることが必要だと思う。
- 奈良の選挙があったときに、政党の名前で検索したら、奈良専用のホームページのある政党が少なかった。個人単位だけでなく、政党の地方ページをつくってほしい。

<議員からの感想・意見>

- 南部・東部地域の魅力ある情報発信について、人をいかにして呼び込むかは、大事なことなので、いい視点の質問だったと思う。若い人に入ってきてもらうため、どんな仕事をつくることができるかは、大きな課題だと思う。
- 私たちは来年それぞれ立候補して皆さんに投票をいただく側になる。しっかりと公約も含めて、伝えて若い皆さんの思いを聞かせていただかなければいけない。

◆第2委員会室◆

※議員と知事の立場の違い、議会の情報発信、将来の夢などについて活発な意見交換が行われました。



【議員 6名】

座長：太田敦

議員：田中惟允、藤野良次、西川均、奥山博康、今井光子

【高校生 10名】

（香芝高等学校）大津快斗、田仲諒汰、河野和佳、田中大志、寛拓己

（高田商業高等学校）速水伸行、徳久唯、三間瀬千凡、松本明日賀、辰巳裕亮

<高校生からの感想・意見>

- もうすぐ18歳になって選挙権を持つが、自分が投票した人たちが、奈良県の先頭に立って、県民のためにしてくれるということを、選挙権を持つ前に知ることができてよかった。
- 一般の高校生からみて、県議会で何をやっているのかわからない。こういうことをしたとアピールしていく場が重要で、政治を知れば、興味なども出てくるきっかけになると思う。
- 奈良県には、もっといいところがあるのに知られていないというのがたくさんあると感じたので、これからは奈良県の観光地、観光資源を発信していくような仕事につきたい。
- 大学の在学中に会社を立ち上げて、社長になりたい。もうかれば、奈良県にお世話になっているので、お金を落としたい。

<議員からの感想・意見>

- 我々議員の立場は、知事の立場とは違う。議員は予算と執行権を持っていない。議員が問題を追及して、知事がそれを理解して、予算をつけて、こういうことをしたという場合、したのはあくまで知事である。市民、県民の意見を知事や所管部局にしっかりと追及して、予算をつけさせて、事業にこぎつけるのが我々議員の仕事である。
- 我々議員は、まず自分の選挙区の中の人からいろいろな意見を聞いて、これをしなければ、あれをしなければと動く。この議会の場で言ったり、担当部局と直接話し合いをしたり、いろいろな形での議論を戦わせて、結論に導く。話を聞くことは、議員が一番やらなければいけないことで、聞いたことをわかった、わかったと受けるだけで、議会の場では何も言わないというのは、議員としてやってはいけないことである。

◆第3委員会室◆

※政治への興味、議場での質問、小中学校の空調設備設置などについて活発な意見交換が行われました。



【議員 9名】

座長：佐藤光紀

議員：大国正博、清水勉、乾浩之、宮本次郎、粒谷友示、小泉米造、
山村幸穂、川口正志

【高校生 9名】

（育英西高等学校）原明日香、古川美結、岸本結葉、多中音羽

（生駒高等学校）森柊弥、高橋萌花、中村駿佑、森本華奈、宮下仁輝

<高校生からの感想・意見>

- 政治に少し興味があってテレビを見ているが、まだ知識が乏しいので、言ったことは全部受け入れて納得してしまい反論するまでいかない。
- 友達と政治のことを話したのは去年のアメリカの大統領選挙のときぐらいなので、これからもう少し友達と政治のことも話そうと思った。
- 奈良はあまり人が集まってこないとよく聞き、自分で考えたときに、やはりホテルなどが少ないのもあると思った。奈良のホテルは客室数が少な過ぎると聞いているので、部屋数をふやすのだったらどうしたらいいかと思い、この機会に聞こうと観光振興のテーマを取り上げた。

<議員からの感想・意見>

- 青年動くとき既に勝利の光ありという、この言葉を大事に私は学生時代を過ごしてきた。皆さんのきょうの活躍を心強く思った。
- 予算執行の財源は何かというと税で、個人で直接支払う税金、企業が納めている税金など、さまざまな種類がある。その税金がどのように集められているか、つまりみんな幸せにならなければいけないわけだから、裕福な人はたくさん納め、苦しんでいる人は配慮する、これが政治である。
- 議員になったとき、先輩議員から、学生の間は学ぶ立場だから、わかっていないから先生に質問するけれども、議員はわかった上で質問しなさいと言われた。皆さんも実は質問はしているけれども、自分の中で答えを持っていたのではないかと思う。それに対してやはり答弁で違う意見が出てきたときに、再質問をしなければならない。きょう再質問の挙手はできなくても、再質問をしたいという気持ちは芽生えたと思う。その気持ちはとても大切であり、それが政治に参画するという気持ちの芽生えだと思うので大切にしていきたい。